

森泉荘だより

発行日
平成21年5月1日

〒018-4515 北秋田市阿仁前田字下前田家の下モ28番地
特別養護老人ホーム 森泉荘
TEL (0186) 75-3204 FAX (0186) 75-3205
メールアドレス shinsensou@gamma.ocn.ne.jp

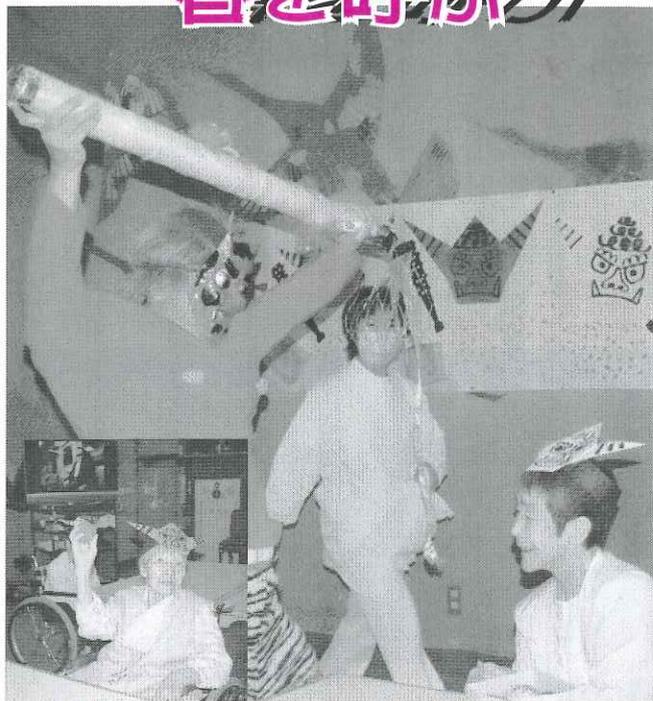
No. 42



～手作りだまっこに舌鼓～

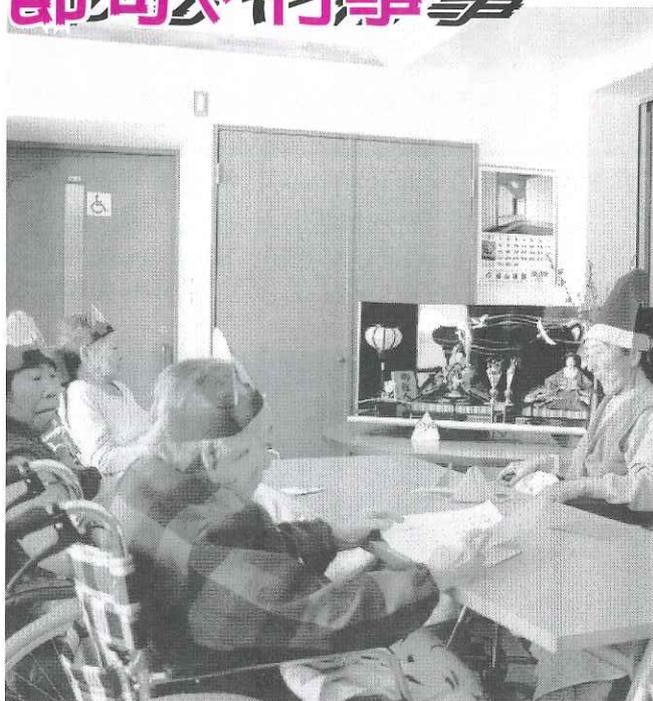
郷土の味「だまっこ」は、人気メニューです。せりやねぎの香が漂い、おかわりの声があがり、ホールは活気にあふれます。

春を呼ぶ



節分 鬼を目の前に思わず笑顔

節句や行事



ひな祭り いくつになってもいいもんだナ



しゅくしーしょん大会 玉入れ、がんばりました



喫茶 “いずみ” オープンしました「ケーキをどうぞ」



宝引大会 今年の運だめしは……



もちつき大会 御供え餅は私たちにまかせて

ふれあい



▲かわいい3人組とあくしゅであいさつ

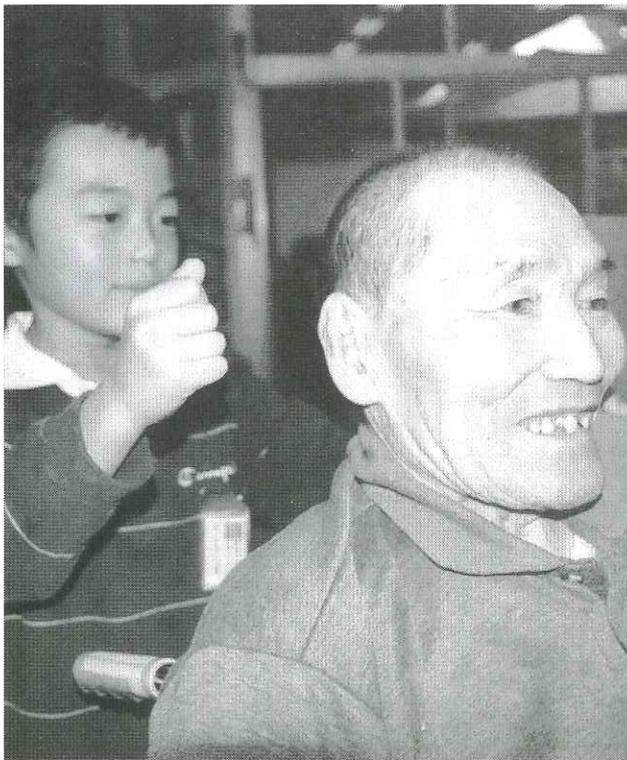
秋晴れの日、前田保育園の園児達と小さな秋の気配を見つけ
 楽しそうに話す利用者。また、浦田小学校の児童が、カスタネッ
 トでの踊りを披露すると目を細め児童達を見つめていました。
 前田小学校の児童からは、肩たたきや元気な歌声、手造りの
 しおりのプレゼントをもらい、「いつまでもお元気で」の一言
 に涙ぐむ利用者も見られました。
 また、シルバー人材センターによる花がさ音頭も披露され、
 かわいい踊りに利用者も、とても喜んでいました。



▲浦田小学生による踊りに心なごむひととき



▲葉っぱで造ったしおりのプレゼント



▲肩たたきをしてもらい、思わず笑顔がこぼれます



▲前田小学校児童の元気な歌声

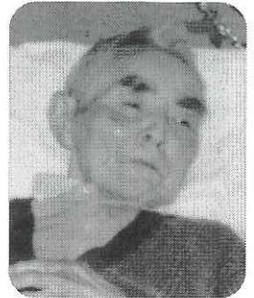


▲シルバー人材センターによる花がさ音頭

～年男・年女の紹介～



「丑」という字は、手の指を曲げて物を握る様子を表した象形文字だそうです。今年、年男、年女のみなさんも幸運をしっかりと握る年でありますように……。



柴田喜代佐久さん

ご家族が持つて来られた、愛らしいお孫さんの写真をながめ毎日過ごされている、柴田喜代佐久さん。

天候や外の様子を伝えると、嬉しそうに笑顔が浮かべ顔を見ております。奥さんの面会を楽しみに、風邪をひかずこれからも元気でいて下さい。



藤田スエさん

藤田スエさんは大正2年生まれ。若い時分に、十人の子様を懸命に育てながら農作業に励み、人生を乗り越えて来られた方です。

現在も食欲は旺盛で、入浴を何より楽しみにされています。これからお元気で、長生きして下さい。



土佐トキエさん

人と接する事が好きな土佐トキエさん。毎朝、みんなが集まるホールに出掛けるのを楽しみにしています。

話しかけると大きな声で笑ってみたり、時には笑いすぎて泣き笑いになったりと、とても表情豊かに毎日を過ごされています。



藤嶋清さん

甘い物の大好きな藤嶋清さん。三時のティータイムには決まった銘柄のコーヒーを美味しそうに飲み、こだわりがあるようです。

また、同施設に短期入所中の妻ヨシさんとの面会を楽しみにしており、無口なタイプのお二人は目と目で会話をしています。



戸嶋政市さん

相撲観戦の大好きな戸嶋政市さん。毎回大相撲が始まるのを楽しみにしています。鼻の力士の勝敗を心配するあまりか、テレビを直接見るのではなく、テレビには背を向け、硝子窓にうつる取組を見て、密かに熱いエールを送っています。今日も独特のスタイルで応援中です。

歌が好きで、いろいろな歌を聞かせてくれる宮野フクさん。



宮野フクさん

切ない歌詞の歌や英語混じりの歌などで、私たちを楽しませてくれます。冬の訪れと共に、口も閉ざしがちでしたが、そろそろ、楽しい歌声が聞こえてきそうな気配です。一曲でも多く昔の歌を聞きたいものです。

ここで施設の予防策と面会の注意事項として

お知らせ

(食中毒対策)

食中毒は一年を通して起こりうる病気で、その殆どが細菌、ウイルスによるものです。その主な症状として嘔吐、下痢、腹痛などで、特に抵抗力のない高齢者はこのような状態が続くと簡単に脱水症状になり重篤に陥ることがあります。

① 手洗い(石けんと流水でていねいに洗う)。

② 面会時、飲食物を持参される場合、原則生物は控えさせていただきますが、もし持参された場合は、その場で食べていただき、食べ切れなかった分に関してはお持ち帰りいただきます。

③ 食品の保管、調理 食材は適温で保管、肉、魚、卵等は十分過熱調理を行う。

④ 調理器具の洗浄、消毒 肉、魚等に使用する包丁、まな板などは使い分けし、使用後の器具は洗剤で十分洗浄、消毒を行う。

快適な施設生活を継続していただくために、皆さんの協力をお願い致します。

快適な施設生活を継続していただくために、皆さんの協力をお願い致します。

ボランティアありがとう

くやさしさと温もりをく 森吉婦人会会長 北林カツさん

「おはようございます」「こんにちは」森泉荘を訪問するたびに何となく口ずさむ挨拶となりました。

利用者の皆さんお元気ですか。今年は雪も少なく春の訪れが早く来たように思います。平成六年森吉町婦人会となりました私達は、社会福祉等地域振興を婦人会活動によって盛り上げようと計画を立て、その一つとしてまず各施設に「ボランティア」と決めました。そして出来る事から始めようと「タオル一本運動」を毎年のように行い、その都



▲ 北林カツさん

度各施設に配布し大変喜ばれました。又花植え、夕涼み会、運動会、であいの家での交流会、ラベンダーの摘み取り、敬老会、オムツたたみ等数多くの奉仕をさせて頂いておられます。北秋田市になり森吉婦人会となりましたが今までも同様奉仕の心を忘れず少しでもお役に立てればと会員一同心に決めております。

最近ある新聞に特養待機者が三十八万人超えている「ついのすみか」と位置づけられており二十四時間ケアが受けられる上一般的に他の施設より費用が安いため希望者が多いとある。

高齢化社会はどんどん進んで来ている。四人に一人が高齢者で一番問題なのは社会からの「孤立化」だということ。それを防ぐため何か出来ないものかと考え元気で長生きしてもらおう為先ず声かけ運動を広げ一日一日を大切に楽しく過ごしていただくとう

話し合いました。

一人暮らし老人には福祉担当を、交通安全の立場から高齢者宅を訪問し交通事故に遭わないよう注意して下さいとか話し相手になったり元気づけたり、いずれは私達も通る道なのでお互いに励まし合っております。

地域婦人会として奉仕活動に進んで参加する。微力ながらもやさしさと温もりを持つて命を大切に安心して住める地域づくりにこれからも努めて参りたいと常に願っております。

感じた事を短歌にしてみました。

- ◆ 森泉荘 訪ねるたびに 世話を受けし 父の眼差し 脳裏に浮ぶ
- ◆ 誰彼と いつかお世話になるんだと オムツたたみの ボランティアなす
- ◆ 阿仁川の せせらぎ聞いて 目覚むらん 春の日射しが 窓辺を照らす



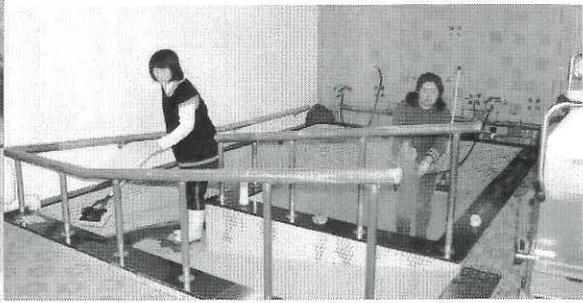
▲ 森吉婦人会前田地区のみなさん



▲ 森吉婦人会米内沢地区のみなさん



▲ 森吉婦人会桂瀬支部のみなさん



▲ 森吉婦人会巻淵支部のみなさん



「がんばれし、はいった!」
機能訓練室に明るい歓声があ
がります。
明るく広く快適な場所となっ
た機能訓練室では、週二回レ
クリエーショングループ活動
を行っています。5〜6名の
利用者の方を集っていただき
体操、リズム遊び、歌などで
ウォーミングアップ。輪投げ
やボトル倒し、玉入れでは点
数を競いあう事で熱がはいり、
普段あまり動かす事がない手
や腕が、この時ばかりは大き
く動くようになります。最高
点の方はトロフィーを手に満
足げな表情を見せてくれます。



「心も体もリフレッシュ」

ボランティア紹介

(H20. 10. 1~H21. 2. 1 敬称略)

演芸披露

(団体)

- 北秋田地域シルバー人材センター(民謡同好会)

御詠歌お唱え

- 福寿寺梅花講

作業奉仕

(団体)

- 森吉婦人会 桂瀬支部 小又支部 巻瀨支部
阿仁前田地区 米内沢地区

- コスモス会

- 桂坂いきいきサロン

(個人)

- 佐藤 栄子
- 細田 怜子
- 松橋 キノ
- 石郷岡ヒサエ
- 九嶋シヅエ
- 北村レイ子

- 疋田 博子
- 工藤 冴子
- 金 シキ子
- 九嶋 トイ
- 九嶋 サダ
- 九嶋 キヨ

- 九島 チヨ
- 九島 テイツ
- 武石 イツエ
- 鈴木 ミツエ

善

意

(H20. 10. 1~H21. 2. 1)

(団体)

- 北秋田市商工会女性部森吉支部
- 福寿寺梅花講
- 森吉婦人会小又支部
- 福田薬局
- フラワーショップ荒川
- 花の店やまだ
- 北秋田市社会福祉協議会
あいかわ地域福祉センター
- サケイ商店

(個人)

- 金田 幸助
- 山本 登
- 松橋久一郎
- 佐藤惣右エ門
- 武石 ヨシ
- 櫻井 正一
- 庄司 善男
- 柴田 裕
- 森川 イエ
- 細田 鉄夫
- 北林エツ子
- 三浦わか子

受入・研修学習状況

- TBKメディカルスクール訪問介護員2級課程養成研修
(平成20年9月25日~11月20日 1名)
- 秋田看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科施設実習
(平成20年9月16日~10月3日 2年生 2名)
(平成21年2月25日~3月31日 2年生 2名)

ふれあい体験

- 前田小学校2年生
- 浦田小学校全校児童

編集後記

長く雪に閉ざされていた冬も終
わり、徐々に活気を増す今日この
頃ですが、花粉症の私にとっては
春は辛い季節である。
以前、テレビでアレルギーの特
集を見ていた際、幼児期に家畜と
触れ合っただけでアレルギーにな
る確率がぐんと低くなる」という
説が話されていた。
そこで、さっそく利用者の方々
に尋ねてみると「昔だばどこの家
でも馬だの牛だのいだもんだ。」と
口々に懐かしそうに話して下さっ
た。なるほど、利用者の方に花粉
症はほとんど見当らない。利用者
の方々が過ごして来られた時代に
思いをはせると同時に、そのたく
ましさに改めて目をみはる毎日
です。
KK